特派員報告 「転んでもシメタ学」月報 その① 2018 年 2 月

トラブルが起きた時，どう行動すればよいか

柳沢克央（信州・上田仮説サークル特派員）

□はじめに

前号『仮説実験授業研究会ニュース 2017 年 12 月号』で予告したとおり，書いています。

2017 年 12 月 4 日（月），この日，不注意で財布を落としました（これは長い社会人生活で初めてのことです）。たいへん唐突ではありますが，この経験から得られた教訓は仮説実験授業をはじめとする教育活動等を安心・安全に実施するために役立つと思いました。そこで，**「拙速は巧遅に勝る」**（孫子の表現は厳密にはちょっと違うが…）とばかりに本稿の素案を作成し，上田仮説サークル 12 月例会で発表し，検討してもらいました。これを経た上で「ねじり鉢巻き」で本稿をしたためて，ここに会員の皆様にお知らせします。仮説・実験的に読み取っていただければ幸いです。

渡辺規夫さん，増田伸夫さんをはじめとする上田仮説サークルの皆さんに感謝します。

会員の皆様には，信州・上田仮説サークル（uedakasetsucircle.jimdo.com）活動の一端を知って頂きたく，また，意のあるところをお酌み取りいただければ幸甚に存じます。

□トラブルというものを概観（大雑把にみる）してみると…

今回，財布を落としたこと（トラブル発生）を知った前後に私がとった行動を一般化すると，次のようにまとめることができます。

---

①トラブルが起きた場合に備えて，ある程度，準備をしておいた。
（それでも，トラブルは起きてしまった）
②トラブルが起きたことを，関係者に伝え，助けを求めた。（今回は傷害・物損はなかったのだが，こうした場合にはさらに多方面の協力を得ることが必要と思われる）
③起きたことを時系列で記録（事故客観化＝自己客観化）し，対策を考え，必要だと思われる行動を「素早く」（と自分では思ってはいますが…）とった。（幸いにして，今回のトラブルは解決した）
④トラブルが解決したことを，関係者に伝え，（簡単ではあるが）お礼をした。
⑤トラブルを振り返って概観し，学習したことをまとめ，関係者に伝えた（本稿はこの段階）。

こうして概観（俯瞰）してみた結果，トラブルとそれに対処することは，仮説実験授業を安心・安全に実施するために，さら敷衍（ふえん）すると，生きていくために重要な研究対象となり得ることがわかりました。次にその詳細を記します。よろしくご検討下さい。「まわりくどい！」と思われる場合は，4 ページ目をごろうじろう。

□2017 年 12 月 4 日（月）のできごと（時系列）

◆17:30 頃，おそらくコートの「貫通ポケット」が原因で，たまたま帰宅途中に寄った S 駅ホーム付近で財布を落とす。当然，この時点では気づいていない。

◆17:40 頃，財布がないことに気づく。
◆17:45 頃，「JR 東日本お問い合わせセンター」に携帯電話からかけてみる。この時点で財布は JR 関係機関には届いていないことがわかった。
◆17:50 頃，**開高健氏作の「編集者マグナカルタ」**（詳しくは『研究会ニュース 2017 年 12 月号』参照）**の一節，「トラブルを歓迎せよ」**を思い出す。どういう結果になるにせよ，このことについて記録に残し，学習したことをまとめ，必要とする人に伝えることができればいいのではないか，「話のネタ」ができたともいえる…などと，ちょっとだけ楽観的に考えることができる余裕が出てきた。時系列でメモを取っていくことはこの時に思い出して，さっそく書き始めることにした。
◆17:53 頃，ロングセラーである **D・カーネギー著『道は開ける』（創元社）**について書かれていたネット書評（https://agri-marketing.jp/2017/08/24/post-6579）の一部を思い出す。

もし悩みの種を抱えているならば，ウィリス・H・キャリアの公式を使って、三つのことをやってみるべきだ。

1.「起こりうる最悪の事態とは何か」と自問すること。
2. やむをえない場合には、最悪の事態を受け入れる覚悟をすること。
3. それから落ち着いて最悪状況を好転させるよう努力すること。

D・カーネギー著『道は開ける』（創元社）より

この時点で予想される最悪の事態は何か。それは，クレジットカードの悪用被害である。これを第一に防がなければならない。免許証がなくなれば困るし，再発行も面倒だ。個人情報流出の懸念もあるが，カードの悪用に比べればまだ軽いだろう。
◆17:55 頃，財布をなくしたことを警察に電話で届け出た。妻に連絡するも留守電設定だった。
◆18:00 頃，電話帳でカード会社の電話番号を探し，さっそくかけてみた。わかったことは，①きょうはこの時点ではカードがまだ使われていないこと，②カードの機能を停止してしまうと，その番号でカードを復帰することはできず，使用したい時には新たに手続きし直す必要があること，以上二点だ。少し迷ったが，財布が見つかることを期待して，この時点ではカードを停止しないでおくことにした。
◆18:41，こういう場合もあるかと思って**定期入れに仕込んでおいた緊急事態用の千円札**で切符を買い，帰りの電車に乗車することができた。
◆18:54，落とした現場と思われた R 駅で下車し，改めて駅員さんに訊いてみたが，財布を拾ったという届け出はないとのこと。
◆19:00 頃，R 駅前交番で警察への拾得届け出があるかどうかを確認したが，届け出はないとのこと。
◆19:09，自宅に向かう電車に乗車。
◆19:45 頃，帰宅。妻に事情を話すと，「たいしたことないと思う。他の人に大迷惑をかけることではないんだし…」と。…確かに，その通りである。改めて「JR 東日本お問い合わせセンター」に家の電話からかけてみると，担当者が「よく似た財布が，S 駅忘れ物センターに届いていること」，「この財布は JR 線に乗り入れ運行している私鉄の運転士さんが S 駅（おそらく車

内）で拾って，S 駅忘れ物センターに届けてくれたらしいこと（後日，御礼メールを送信)」，「12 月 7 日（木）まで保管されていること」,「忘れ物センターの明日 5 日（火）営業時間は 9:00 からであること」,「受け取るためには印章およびパスポートまたは印鑑登録証明など身分を証明するものが必要なこと」を教えてくれた。明日の朝一番で「忘れ物センター」に出向くこと（5 日午前中は幸いにして私の担当する授業なし)，カード停止か否かの判断は明日まで延ばすこと，を決めた。少し安心する。ゆったりとした気分で入浴，夕食。よく眠れた。

□12 月 5 日（火）のできごと（時系列）
◆7:50，教頭さんに遅れて出勤する旨，連絡する。
◆8:19，いつもよりも遅い電車に乗り，いつもの R 駅を通り過ぎて S 駅まで。
◆8:54 ，S 駅着。改札で「忘れ物センター」の場所を教えてもらう。
◆9:00,「S 駅忘れ物センター」着。名前などを伝えると，待ってましたとばかりに係員さんが奥から財布を持ってきてくれた。財布は…間違いなく私のものだった。…恐る恐る中身を確認してみると，…100%なくした時のまま。発見してくれたのは，私鉄の運転士さんだということだ。運が良かった。お礼を言い，受け取る。
◆9:40 出勤。教頭さんにあいさつ。
◆9:50 頃, 昨日お世話になった R 駅前交番に電話し, 財布が無事見つかった旨を伝えたところ, 遺失物の届け出を取り消す旨の説明の後で，**「よかったですね～」とのあたたかい言葉。これがとてもうれしい。**これから生徒さんたちがトラブルから脱出できたり，良いことがあったりした時にはこういう風に声をかけてあげたいものだなぁと思った。
◆10:00 頃，研究室でコーヒーを飲みながら，同僚の K さんに昨日から今日のことを**話す**。話すことで，**記憶が整理できた**気がする。「お財布が見つかって本当によかったですね～」，次いで「私はお財布をいつも必ず〇〇〇しています」（具体的な予防法）などの言葉をもらう。なるほど～と納得。信頼できる人に共感してもらうと，ホッとしてさらにうれしくなってくるものらしい。話しながら，言葉の問題について考え始める。「事故学」は非常に印象が重いなぁと思っていた。「失敗学」でも私にはまだ重い。私が一番やりたいと思っていることは「失敗事例」の分析だけではない。一番は「予防」することと「回復」する手段を明確にすることだと気づく。「安全学」はプラスイメージの言葉であり，確かに必要だろう。ともかく，**記憶と問題意識が鮮明なうちに書き始めよう**と，さっそく草稿執筆に着手。今日の空き時間を有効活用しよう。
◆12:20 昼食。
◆13:45，五時限目授業。この講座のメンバー（20 人）全員が将来，医療・看護方面への進学を希望している。これは「発表」の良い機会だと思った。書きかけの素案をプリントアウトして持っていき,「ちょっと協力してね」とお願いした後，その場で適宜，補足・抜粋などを施して朗読。「医療現場などでトラブルが起きた時にどう対処したらいいかな？」と訊いてみた。ランダムに指名した生徒さんは「落ち着いて行動する」「必要な人に伝える」などの見解を答えてくれたが,「時系列で記録する」と答えた生徒さんはいなかった。「時系列で記録する」ことを伝える価値は高いのではなかろうか。つづいて, 前出の**「最悪の事態を想定する」**という部分で, 今回の私の場合，具体的にどういうことだと思うかを尋ねたら，一人目の生徒さんが「カード

の悪用」と答えてくれた。感想は書いてはもらわなかったが，かなり良い感触が得られた。次いで**「患者さんによいことがあって，それに共感できた時には〈よかったですね～〉と言って共感したことを伝えると良いかも」**と話したら，多くの生徒さんがうなずいてくれた。

□12 月 14 日（木）3 時限目，パソコン室「情報」の授業で…

この講座の生徒さんたちはテキストに沿って「エクセル」の入力実習。授業時間が始まるとすぐに全員が深い集中状態に入った。ここで，授業の参考のために用意した**中尾政之著『図解・仕事のミスが 99%なくなる思考法』（PHP 研究所・2016 年・大判）（この本はその名の通り見開きの図解構成でとてもわかりやすく，正しく読めば，仕事をする上でとても役に立ちますのでオススメです）**を開いて勉強。（11 月末のある日，この本があまりに面白かったので読みふけっていたら，研究室に「柳沢先生，英語のテスト監督に行くのを忘れていますよ。すぐに駆けつけて下さい！」という校内電話がかかってきました。「正しく読む」ことが大切だと思いました。苦笑）

たとえば，本書 56 ページのタイトルは**「常にリカバリー策を講じておく。備えあれば憂いなし」**である。これを読みながら，私のやりたいことは「失敗を未然に防ぐ予防の方策」に関すること，および「失敗からの脱出のための方策」に関することだと明確に認識した。

失敗事例を集めることは，これらを実現するためにたしかに必要であるが，そのこと自体を目的にしても仕方がない。**要するに「君子危うきに近寄らず」，「備えあれば憂いなし」，「転ばぬ先の杖」と「七転び八起き」をすればいいのではないか。そして，「再発防止」が必要。**

「事故学」「失敗学」では，「運動」が十分に表されていないような気がする。その前を見据え，その先を見越して考えるならば，これらは「七転び八起き学」＝「転んでもシメタ学」なのではないか。少なくとも私が現時点で考えてみたいのは，私たちのあるべき姿，**「七転び八起き」＝「転んでもシメタ」という運動形態。「以て自らを解決する運動形態」（板倉聖宣・犬塚清和）が大切だ。「仮説実験授業研究会」は「仮説・実験・授業・研究・会」という「運動形態」を表している。**信州・上田仮説サークルはその一翼を担っている。そして，…（つづく）

□今回の〔まとめ〕は次のとおりです

□ 困ったら「困っている」と伝えよう　……　起

□ トラブルは時間を追って記録する　……　承

□ 書くことで自分見つめて先を読む　……　転

□「転んでもシメタ」目指して歩み出す　…　結

ご意見・ご感想をお寄せ下さい。katsu-y@coral.plala.or.jp〔2018 年 1 月 19 日（金）18:00〕

〔次回予告〕「仮説実験授業を安心・安全に実施するのために読んでおくとよい本あれこれ」